

令和6年度シラバス

(Ⅱコース1年)

日本大学東北高等学校

目 次（Ⅱコース1年）

| | | | |
|--------------|---|----|----|
| 学校シラバス | … | 1 | |
| Ⅱコース1学年 | … | 2 | 4 |
| 現代の国語 | … | 5 | 7 |
| 言語文化 | … | 8 | 11 |
| 歴史総合 | … | 12 | 14 |
| 公共 | … | 15 | 18 |
| 数学Ⅰ・A | … | 19 | 22 |
| 物理基礎 | … | 23 | 25 |
| 化学基礎 | … | 26 | 29 |
| 生物基礎 | … | 30 | 32 |
| 体育 | … | 33 | 38 |
| 保健 | … | 39 | 42 |
| 音楽Ⅰ | … | 43 | 44 |
| 美術Ⅰ | … | 45 | 46 |
| 書道Ⅰ | … | 47 | 48 |
| 英語コミュニケーションⅠ | … | 49 | 52 |
| 論理・表現Ⅰ | … | 53 | 54 |
| 総合的な探究の時間 | … | 55 | 57 |

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

1. 奉仕と思いやりの心を持つ 2. 新校舎を大切に学ぼう 3. 自ら学び、考え、道をひらこう

| 取り組み項目 | 具体的な内容 |
|---|--|
| キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。 |
| 国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学研修を実施する。 |
| 自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。 |
| 学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。 |
| 学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。 4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。 |

◇年間行事計画

IIコース1学年

| 指導内容・行事 | | 指導のねらい |
|---------|-------------------|---|
| 4月 | IIコース1年生オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・愛校心の涵養・生活習慣の確立 ・進路意識の高揚 ・生徒間、教員との信頼関係の構築 |
| | 校内オリエンテーション | |
| | 二者面談 | |
| | 基礎学力到達度テスト | ・基礎学力の定着、自己分析 |
| | 進路希望調査 | ・自己理解と目標設定 |
| | 登校指導 | ・基本的生活習慣の確立 |
| | iPad 配布・説明会 | ・情報リテラシーの向上 |
| | シェイクアウト訓練 | ・危機管理意識の醸成 |
| 学級懇談会 | ・教員―保護者の信頼関係の構築 | |
| 5月 | 校内体育大会 | <ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築 |
| | 保護者参観授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化 |
| | 身だしなみ向上週間 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成 |
| | 1学期中間試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定 |
| | 英検 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ |
| 6月 | 身だしなみ向上週間 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成 |
| | 数検、漢検 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ |
| | 1学期期末試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定 |
| | 性の講演会 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己を守るための情報提供 ・予防啓発 |
| 7月 | アカシヤ祭 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深める ・創造力、表現力の伸長 ・他者と協働する力を育む |
| | ベネッセ総合学力テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定 |
| | 芸術鑑賞会 | ・文化、芸術への造詣を深める |
| | 三者面談 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携 ・信頼関係の構築 ・現状の理解と目標の設定 |

| | | |
|-----|---------------|--|
| | 夏期進学講座 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立 |
| | 探究活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力、表現力の伸長 ・地域社会への理解を深める |
| 8月 | スタディサポート | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案 |
| | 8時間耐久自学 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立 ・集中力、忍耐力を育む |
| | 大学探究プログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚を図る ・自己理解を深める |
| | 全統模試 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案 |
| | 夏期進学講座 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立 |
| 9月 | 成果テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 |
| | 進路希望調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の確認 |
| | 服装頭髪指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める |
| | スタディサポート | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案 |
| | 保護者参観授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化 |
| | 秋の交通安全指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全な登下校の啓発 |
| 10月 | 2学期中間試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る |
| | 身だしなみ向上週間 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成 |
| | 英検、漢検 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ |
| | 文理選択・コース変更説明会 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚 ・保護者との連携 |
| 11月 | 身だしなみ向上週間 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成 |
| | ベネッセ総合学力テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定 |
| | 二者面談 | <ul style="list-style-type: none"> ・文理選択に関する理解を深める ・疑問点や不安を解消する |
| 12月 | 2学期期末試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る |

| | | |
|----|--------------------|--|
| | 冬期進学講座 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立 |
| 1月 | 成果テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・学習活動の成果を測る |
| | 服装頭髪指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める |
| | ベネッセ総合学力テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題設定 |
| | 英検、漢検 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ |
| 2月 | 身だしなみ向上週間 | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成 |
| | 探求活動報告会 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現力、プレゼン力の育成 |
| | Welcome program 準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・企画力の伸長 ・学年を越えた交流を深める |
| | 数検 | <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得によるキャリアアップ |
| 3月 | 3学期末試験 | <ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る |
| | 春季特別授業 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立 |
| | 進学講演会（合格体験報告会） | <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の高揚 ・学習習慣の見直し |
| | スタディサポート | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着度を測る ・強み、弱みの把握 ・学習計画の立案 |

| | | | |
|-------|-----|------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 現代の国語 | 3 | 1 | Ⅱコース |

教科書名 高等学校 現代の国語 (数研)
副教材名 三訂版 プログレス 現代文総演習 基本編 (尚文)
思考力・判断力・表現力へのアプローチ (いいずな)
現代文練習帳 ことのは (いいずな)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|------------------|---|---|--------------------------------------|
| 1 学 期 | 4 | (1) ガイダンス 授業の進め方 | (1) ① 予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する |
| | | (2) 『思考力・判断力・表現力へのアプローチ』 新聞記事と資料を読み比べる① | (2) ① 新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける |
| | | (3) 「対比の構造」(教科書) | ② 文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける |
| | 5 | 【一学期中間試験】 | (3) ① 主張と論拠など情報と情報との関係について理解する |
| | | (1) 『思考力・判断力・表現力へのアプローチ』 新聞記事と資料を読み比べる②③ | |
| | 6 | (2) 「具体と抽象」(教科書) | (1) ① 新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける |
| (3) 「表現の実践」(教科書) | | ② 文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける | |
| | | (2) | |

| | | |
|--|--|---|
| 7 | 【一学期期末試験】 | ①言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する (3) ①話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する |
| 【課題・提出物】 授業ノート・週課題 | | |
| 【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 (1)『思考力・判断力・表現力へのアプローチ』 いろいろな資料を読み比べる① (2)「一般論と主張」(教科書) | (1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける |
| | 10 【二学期中間試験】 (1)『思考力・判断力・表現力へのアプローチ』 いろいろな資料を読み比べる②③ | (2) ①文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する ②推論の仕方を理解して使う |
| | 11 (2)「比較する」(教科書) (3)「視野を広げる」(教科書) | (1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける |
| | 12 【二学期期末試験】 | (2)・(3) ①実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする ②比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解して使う |
| 【課題・提出物】 授業ノート・週課題・読書感想文 | | |
| 【2学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | |

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|--|---|
| 3 学 期 | 1 | (1)『思考力・判断力・表現力へのアプローチ』 評論文と資料を読み比べる①②③ | (1) ①新傾向の問題に対応した記述力の基礎を身に付ける |
| | 2 | (2)「思考を深める」(教科書) (3)「実用の文章」(教科書) | ②文章と図表資料などを関連付けながら読み解く力を身に付ける |
| | 3 | 【三学期期末試験】 | (2) ①実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深める |
| | | | (3) ①情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う |
| | | 【課題・提出物】授業ノート・週課題 | |
| | | 【3学期の評価方法】 定期試験の素点×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | |
| | | 【年間の学習状況の評価方法】 年間の定期試験の素点平均×80%+年間の平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|------------------|
| 知識・技能 | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。 | 定期試験・小テスト・提出物 |
| 思考・判断・表現 | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 | 授業態度・定期試験・発表・提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 | 授業態度・小テスト・発表・提出物 |

4 学習サポート(事前・事後学習等について)

予習・復習を前提として授業を行います。受け身ではなく主体的に学ぶ姿勢を大切にしてください。読解においては、文章構造に着目し、文や段落相互の関係、資料や図表との関係を正しく理解することを心掛けましょう。

| | | | |
|------|-----|------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 言語文化 | 3 | 1 | Ⅱコース |

教科書名 高等学校 言語文化 (数研)
副教材名 三訂版 プログレス 現代文総演習 基本編 (尚文)
三訂版 プログレス 古典総演習 基本編 (尚文)
新明説総合古典文法 (尚文) 精説漢文 (いいずな)
精説漢文完成ノート (いいずな)
古典攻略マストアイテム76 (桐原) 解法古文単語350 (数研)
古典文法 助動詞徹底ワーク (尚文)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|--|---|
| 1 学 期 | 4 | (1)ガイダンス ①授業の進め方 ②週課題, 小テスト | (1) ①予習・復習の仕方や授業の基本的な進め方について理解する ②週課題や小テストの内容や提出方法について理解する |
| | 5 | (2)古典文法入門 (3)用言(動詞) (4)小説(ワークブック) 【一学期中間試験】 | (2)・(3) ①現代語と古典語の違いについて理解する ②歴史的仮名遣い・品詞・活用の種類と活用形等について理解する (4) 小説の基本的な読み方について理解する |

| | | | |
|--|----|---|---|
| | 6 | (1)用言(動詞・形容詞・形容動詞) (2)助動詞 | (1)・(2) ①用言の活用の種類と活用表等について理解する ②助動詞の文法的意味と活用表, 接続の仕方等について理解する |
| | 7 | (3)小説(ワークブック) 【一学期期末試験】 | (3) ①小説の基本的な読み方について理解する |
| 【課題・提出物】 授業ノート・週課題 | | | |
| 【1学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | (1)助動詞 | (1) ①助動詞の文法的意味と活用表, 接続の仕方等について理解する |
| | 10 | (2)「古文の世界を楽しむ」(教科書) (3)「受け継がれる古文」(教科書) 【二学期中間試験】 | (2) ①古典の世界に親しむために, 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり, 古典特有の表現などについて理解する (3) ①文章の意味は, 文脈の中で形成されることを理解する ②作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ, 内容の解釈を深める |
| | 11 | (1)「現代にも生きる教え」(教科書) (2)「和歌による心の交流」(教科書) (3)漢文入門(教科書) (4)「詩歌の系譜」(教科書) | (1)・(2) ①文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 展開などについて叙述を基に的確に捉える (3) ①我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する (4) |
| | 12 | 【二学期期末試験】 | ①我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し, それらの文化的背景について理解を深め, 文章の中で使うことを通して, 語感を磨き語彙を豊かにする |

| | | | |
|--|--------------------|--|---|
| 【課題・提出物】授業ノート・週課題・創作(俳句・短歌・詩・小説) | | | |
| 【2学期の評価方法】 定期試験の素点平均×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい | |
| 3 学 期 | 1 2 | (1)「仮名日記文学の原点」(教科書) (2)「故事と成語」(教科書) (3)「漢詩のことば」(教科書) (4)「受け継がれる漢文」(教科書) | (1) ①作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ (2)・(3) ①古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する (4) |
| | 3 | 【三学期期末試験】 | ①我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする |
| | 【課題・提出物】授業ノート・週課題 | | |
| 【3学期の評価方法】 定期試験の素点×80%+平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 年間の定期試験の素点平均×80%+年間の平常点(授業態度・提出物・小テスト)×20% | | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|------------------|
| 知識・技能 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。 | 定期試験・小テスト・提出物 |
| 思考・判断・表現 | 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 | 授業態度・定期試験・発表・提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。 | 授業態度・小テスト・発表・提出物 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・復習を前提として授業を行います。古典の文章読解においては、文法事項の確認・現代語訳を各自で行い、授業に臨んでください。

古文においては、文法事項を理解することはもちろんですが、それをいかに用いて文章を読むことができるかが大切です。

漢文においては、漢字の意味や句形を理解するとともに、文法構造に着目して学びましょう。

近現代の文学においては、作品の成立した背景を知るとともに、文章における表現を適切に読み取ることができるよう心掛けてください。

| | | | |
|------|-----|------|-------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 歴史総合 | 2 | 1学年 | Ⅱコース |

教科書名 歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)

副教材名 明解 歴史総合図説 (帝国書院)

1 科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決をすることにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身に着ける。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|------------------------------------|----|--|---|
| 1 学 期 | 4 | ガイダンス 帝国主義と列強の展開 | ・第2次産業革命の概要をまとめ、それがいかに世界を変化させていったのかを理解する。 |
| | 5 | 【探求：なぜユダヤ人は差別されたのだろうか】 | ・ドイツとイギリスの対立を軸として、国際的に複雑な同盟・協商関係が形成されていった過程を考察する。 |
| | 6 | 世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響 1学期中間試験 辛亥革命 第1次世界大戦 ロシア革命 パリ講和会議と国際連盟の成立 | ・総力戦による社会の変化を理解する。 ・ロシアの内戦と日本のシベリア出兵の意図を理解する。 ・パリ講和会議とヴェルサイユ条約の内容を整理し、国際連盟の限界を理解する。 |
| | 7 | 1920年代の西ヨーロッパ諸国 1学期期末試験 | ・第1次世界大戦後に民族運動が活発化した要因を理解し、その影響を考察する。 |
| 【課題・提出物】・授業ノート・プリントの点検 | | | |
| 【1学期の評価方法】 | | | |
| ① 定期試験の成績 (80%) | | | |
| ・知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 | | | |
| ② 学習態度等の平常点 | | | |
| ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 | | | |
| ・授業ノート・プリントの状況进行评估する。 | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | アジア・アフリカの民族運動 大量消費社会と市民生活の変容 社会労働運動の進展と大衆の政治参加 | ・アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえ、大量消費社会の特徴を理解する。 ・恐慌が世界に波及した要因を追求し、その後の世界に与えた影響を理解する。 |
| | 10 | 2学期中間試験 世界恐慌の発生と各国の対応 | ・ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への |

| | | | |
|---|----|--|---|
| | 11 | ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州 日中戦争と国内外の動き 第2次世界大戦と太平洋戦争 | 影響を考察する。 ・日中戦争がおこった背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察する。 |
| | 12 | 【探求：ヨーロッパで始まった2次大戦にアメリカと日本はどのように関与したか】 2学期期末試験 新たな国際秩序と冷戦の始まり | ・第2次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。 ・イスラエルの成立にともなうパレスチナ地域の動向について考察する。 ・日本がどのように国際社会に復帰したかを考察する。 |
| 【課題・提出物】・授業ノート・プリントの点検 | | | |
| 【2学期の評価方法】 | | | |
| ① 定期試験の成績（80%） ・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 | | | |
| ② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 ・授業ノート・プリントの状況进行评估する。 | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | アジア諸地域の独立 集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存 | 西側陣営が各地に集団防衛機構を構築した目的を理解する。 ・ソ連の雪解けと西側への影響を理解し、東ヨーロッパ世界の動揺や中ソ問題の悪化を理解する。 |
| | 2 | 西ヨーロッパの経済復興 【探求：中東戦争について、その経緯をまとめてみよう】 第三世界の連携と試練 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ世界経済の転換 | ・国際社会で第三世界が形成された背景と、その活動について理解する。 ・ベトナム戦争の発生とその経過について理解する。 ・1970年代の世界経済転換の背景を理解する。 |
| | 3 | 3学期期末試験 冷戦構造のゆらぎ | ・ゴルバチョフの新思考外交によって冷戦が終結し、東欧革命が発生した経過を理解する。 |
| 【課題・提出物】・授業ノートの点検 | | | |
| 【3学期の評価方法】 | | | |
| ① 定期試験の成績（80%） ・知識・理解の確認とともに、歴史的な思考力を問う論述問題も出題する。 | | | |
| ② 学習態度等の平常点 ・授業時などの学習過程で、観点別評価内容の3項目について評価する。 ・授業ノート・プリントの状況进行评估する。 | | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。 | | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|-----------------------------------|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。 ・近現代の歴史の因果関係を、世界とその中の日本を相互的視野から解き明かすことができる。 | 授業の様子 授業ノート 定期テスト 探求レポート |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて考察するとともに、これを効果的に説明することができる。 | 授業の様子 授業ノート 定期テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に興味・関心を持ち、主体的に授業に参加し、積極的に課題を追求・解決することができる。 ・多角的・多面的な考察と深い理解力を持ち、自国や他国の文化を尊重することができる。 | 授業の様子 授業ノート 探求レポート |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・随時、学習相談を実施していますので、理解の難しい所があれば、早めに解決しましょう。
- ・歴史に興味・関心を持って欲しいです。授業中にお勧めの本を紹介しますので、是非読んでみて下さい。

| | | | |
|----|-----|------|-------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 公共 | 2 | 1 学年 | Ⅱコース |

教科書名 高等学校 公共 (清水書院)

副教材名 高等学校 公共ワークノート (清水書院)

フォーラム 公共 2024 (とうほう)

1 科目目標

○令和4年度から成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、高校生にとって政治や社会は一層身近なものになる。国家や地域社会、家庭など様々な集団を構成する一員としてよりよく生きるために必要な倫理、政治及び経済などの社会生活に関わる基礎的な知識を身につける。

○人間と社会のあり方についての見方・考え方を深め、現代の諸課題を追求する活動を通して、広い視野をもち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力と態度を育成する。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|--|---|
| 1 学 期 | 4 | 第1編 公共の扉をひらく 第1章 公共的な空間をつくる私たち 1 私たちの人生と社会 2 青年期の心理と課題 3 哲学の始原と発展－ギリシャ思想 | ○青年期とは、人生の中でどのように位置づけられているかを学び、課題について考え、理解する。 ○現代社会に大きな影響を与えているギリシャ思想、一神教、東洋の宗教がどのように展開していったか理解する。 |
| | 5 | 4 一神教の教え 5 東洋の宗教と思想(1)－仏教 6 東洋の宗教と思想(2)－儒教 7 日本の風土と神仏への信仰 8 江戸時代の学問と近代化への歩み 1学期中間試験 | ○日本の伝統文化や思想について、神や仏に対する古くからの信仰について学び、私たちの生活や価値観とのつながりを学習する。 |
| | 6 | 第2章 公共的な空間における人間 1 義務論と功利主義 第3章 公共的な空間における基本的原理 1 近代的人間像の誕生(1) －近代の始まり 2 近代的人間像の誕生(2) －科学的な思考 3 国家社会と人間性(1)－社会契約説 | ○現代世界を支える制度やしぐみは西ヨーロッパの近代化によって誕生した。近代科学や近代国家が誕生した背景や理念について理解する。 |

| | | |
|---|---|--|
| | 4 国家社会と人間性(2) -ヘーゲルとマルクス 5 国家社会と人間性(3)-実存主義 6 公共性の復権と他者についての思考 7 7 公正な社会と個人-現代の政治思想 1 学期期末試験 | |
| 【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出 | | |
| 【1学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認とともに、大学入試の過去問からも出題する。 ②課題・学習態度の平常点(20%以内) 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況(期限の遵守・取り組み具合)について評価する。 | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 第2編 基本的人権の尊重と法 第1章 民主政治の原理 1 近代国家と立憲主義 2 日本国憲法の成立 第2章 人権の尊重と日本国憲法 1 日本国憲法の三原理と人権保障 2 平和主義と国際社会 3 平等権 4 自由権 5 社会権 6 参政権の保障と国務請求権 10 7 新しい人権 8 グローバル化と国際人権 2 学期中間試験 第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と課題 1 自由民主主義の成立と危機 2 現代の自由民主主義と課題 3 世論の形成と民主社会 11 4 政治参加と主権者(有権者) 5 選挙と政党 第2章 日本の政治機構 1 国会の役割としくみ | 学習のねらい ○戦前・戦後の日本の政治体制を比較し、天皇の地位や国民の権利などの点に着目しながら多面的・多角的に考察する。 ○日本国憲法の三原理や基本的人権の内容について学び、判例などをもとに各人権を保障する諸制度について理解する。 ○現代日本で誕生した新しい人権とその背景、個人情報保護などの諸課題について理解する。 ○新聞・テレビなどのマスメディア、SNSが提供する情報の特徴を学び、世論の形成にどのような役割を果たしているか考察する。 ○選挙制度の問題や政治的無関心といった、現代民主政治の諸問題について理解する。 ○日本の政治機構について理解し、行政権の肥大化などの政治の諸問題について考察する。 |

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| | 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民生活と司法参加 5 地方自治と住民の生活 2 学期期末試験 | ○三審制や違憲判決の事例をもとに、日本の最高裁判所の地位と権限について理解を深める。 | |
| | 【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出 | | |
| | 【2 学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認とともに、大学入試の過去問からも出題する。 ②課題・学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・取り組み具合）について評価する。 | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 2 | 第4編 現代の経済社会と国民生活 第1章 私たちと経済活動 1 私たちと経済 2 仕事と社会 3 国民経済とGDP 第2章 社会のしくみと役割 1 社会のしくみとしての市場 2 市場の機能 3 市場の限界 4 金融とそのはたらき 5 財政とそのはたらき 6 現代の企業 7 労働問題 8 社会保障の役割 9 少子高齢化と財政の維持可能性 3 学期期末試験 | ○多様な契約及び消費者の権利と責任について取り上げ、消費者保護のための法制度を理解する。 ○経済指標としての国民所得について理解し、日本と諸外国の経済成長の差に着目して、その要因を考察する。 ○資本主義経済の発展と変容について、社会主義経済との違いに着目して理解する。 ○金融機関及び租税の役割、日本財政が抱える諸問題について理解する。 ○さまざまな企業の形態や企業の社会的責任、日本の労働環境の課題について理解する。 |
| | | 【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出 | |
| | | 【3 学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認とともに、大学入試の過去問からも出題する。 ②課題・学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・取り組み具合）について評価する。 | |

【年間の学習状況の評価方法】

○総合評価は学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。

○平常点は以下を踏まえて20%以内とする。

①授業に対する意欲と関心

②課題等への取り組み（宿題等）

③年数回のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|------------------------|
| 知識・技能 | 国家や地域社会、家庭など様々な集団を構成する一員として、よりよく生きるために必要な倫理・政治・経済に関わる基礎的な知識を身につけている。 | ○定期試験 ○提出物 |
| 思考・判断・表現 | 知識・技能を活用して自身の考えを広げたり深めたりする表現力を身につけている。また、現代社会の諸問題について、事実にもとづき多面的・多角的に考察し、問題の解決に向けて公正に判断することができる。 | ○定期試験 ○授業態度 ○提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 公共に興味・関心をもち、自ら進んで授業に参加し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 | ○授業態度 ○提出物 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

新聞やニュースで扱われている時事問題なども例に挙げ、社会を生き抜くために必要な知識を身に着けられるようサポートしていく。苦手意識をもたずに積極的に授業に参加し、理解できなかったこと、疑問点があればどんどん質問して欲しい。

| | | | |
|---------|-----|------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 数学Ⅰ・数学A | 6 | 1年生 | Ⅱコース |

教科書名 数学Ⅰ・A・Ⅱ (啓林館)

副教材名 Focus Gold ⅠA アドバンスα Ⅰ・A サンダイヤル データの分析
問題集ノート Cue (図形の性質)

1. 科目目標

納得するまで考える忍耐力を身に付ける

- ① 分析力の向上 (状況判断する力)
- ② 翻訳力の向上 (課題の内容を自分の言葉で言い換える力)
- ③ 目標設定力の向上 (課題解決に向かうスモールステップを自分で設ける力)
- ④ 遂行力の向上 (課題解決の過程を説明する力)

2. 学習計画及び評価方法

(CanDo リストになっています。単元毎に自己評価をしましょう)

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|--------|------|---|
| 1 学 期 | 4 | 数と式 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の基礎となる計算力や工夫の仕方を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 中学数学を元に、展開公式や因数分解の手法、1次不等式、絶対値記号のはずし方や対称式の性質を学ぶ。(①分析力④遂行力) <input type="checkbox"/> パラメータの取り扱いを学ぶ。(②翻訳力③目標設定力④遂行力) ・2次関数の性質や、パラメータが絡んだときの兼ね合いなどを理解する。 <input type="checkbox"/> 対称移動や平行移動を頂点の特徴を活かして理解する。合わせて、式のみの変形で理解する。(①分析力②翻訳力) <input type="checkbox"/> パラメータが入った場合のグラフの動き方を理解し、最大値や最小値を求めることができる。(①分析力②翻訳力④遂行力) <input type="checkbox"/> 方程式・不等式・グラフを元に考察し、解の配置問題が解ける。(①分析力③目標設定力) |
| | ~ 7 | 2次関数 | |

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---|--|--------------------------------|--|
| 3 学 期 | 1 ~ 3 | 方程式・式と証明 データの分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・より高度な方程式の解き方や証明の手法を学ぶ。 □複素数を用いて、高次方程式やそれらに関連する概念を身に付ける。(①分析力③目標設定力) □証明する手法を確立する。 (①分析力②翻訳力) ・ヒストグラムや箱ひげ図などのグラフを通して、データが分析できる。 □「偏差」「分散」などの統計用語を正しく理解し、それらを通してデータが分析できる。 (①分析力②翻訳力) |
| | 【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと | | |
| | 【第3学期の評価方法】 1, 2学期までの成績を基本とする。しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。 | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。しかし、定期試験の平均点の状況によっては、平常点を20%以内で評価することもある。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点することもある。 | | | |

3. 評価の観点、内容及び評価方法

| | 評価の観点及び内容 | 評価方法 |
|-----------------------------------|--|----------------------------------|
| 知識・技能 ②翻訳力 | 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 | 定期試験、 成果テストや 小テスト |
| 思考・判断・表現 ③目標設定力 | 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 | 定期試験、 成果テストや 小テスト |
| 主体的に学習に 取り組む態度 ①分析力 ⑤遂行力 | 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 | 提出物の状況、 他者との協働の様子、 各種提出物など |

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違える事をしていないと)わからないし、出来るようにもならない。数学で大切なのはアウトプットすること。

- 先ず手を動かす事...自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない。
- ノートを取るだけで満足しない...カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。大切なのは自分で解けるようになること。
- 分からなければ誰かに尋ねる...「教え合う」事で理解度 90%。
数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→...」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)。その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方...アドバンス α や Focus Gold を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→アドバンス α, Focus Gold *マーク 1~2
- ・ 考える力をつけたい→アドバンス α, Focus Gold *マーク 3~4
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。最終的に目指すべきところは国公立 2 次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。(Classi やロイロノートを大いに活用すること)
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

| | | | |
|------|-----|------|---------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 物理基礎 | 2 | 1年 | I・IIコース |

教科書名 物理基礎（東京書籍）

副教材名 ニューアチーブ物理基礎（東京書籍）

1. 科目目標

1. 物理に対しての興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
2. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。
3. 物理の学習を通じて、主体的に学ぶ姿勢と、他者と協働して学習する態度を身に付ける。
 学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。
 また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切に、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

2. 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|--|---|--------------------------------------|---|
| 1 学 期 | 4 | 物理量の測定と扱い方 速度・加速度 | <ul style="list-style-type: none"> ・有効数字を考慮した数値の表し方を学ぶ。 ・直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。 |
| | 5 | 1 速さと等速直線運動 2 直線運動の加速度 3 落体の運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・直線上を運動する物体の加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析する。 |
| | 6 | さまざまな力とのはたらき 1 力とつり合い 2 運動の法則 | <ul style="list-style-type: none"> ・物体が空中を落下する際の運動の特徴について理解し、鉛直方向の落下運動の式が扱える。 ・物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身につけるとともに、それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・慣性の法則、運動の法則について理解し、物体にはたらく力と運動との関係を分析する。 |
| 【課題・提出物】 ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 | | | |
| 【1学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| | 9 | 3 さまざまな運動とはたらく力 力学的エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・連結、押し合う2物体の運動を考える。 ・摩擦力を受ける物体の運動について学ぶ。 |

| | | | |
|--|----|--|---|
| 2 学 期 | 10 | 1 仕事 2 運動エネルギーと位置エネルギー 3 力学的エネルギーの保存 | <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。 ・仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方について理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について、仕事と関連付けて理解を深める。 ・熱の正体、温度目盛りについて理解する。 ・熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。 ・仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 ・熱機関とその熱効率及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。 ・波の伝わり方について理解する。 ・波の基本的な性質を理解し、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。 |
| | 11 | 熱 1 熱と温度 2 熱の利用 | |
| | 12 | 波 1 波の性質 | |
| | | | |
| <p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 ・夏期休業中課題 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギーの実験 ・ブラウン運動の観察 ・縦波と横波の観察 <p>【2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○夏季課題</p> | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | 2 音と振動 | <ul style="list-style-type: none"> ・波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。 ・音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、楽器の原理について理解する ・電気と磁気の基礎を学ぶ。 ・さまざまなエネルギーについて学ぶ。 |
| | 2 | | |
| | 3 | 電気と磁気 エネルギーと利用 | |
| <p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の波形の観察 | | | |

| |
|---|
| <p>【3学期の評価方法】</p> <p>定期試験（80%） 平常点（20%） 平常点は以下の項目などにより評価する。</p> <p>○ニューアチーブ物理の取り組み ○授業に対する意欲・積極性</p> |
| <p>【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点</p> <p>平常点は以下の項目などにより評価する。</p> <p>○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○長期休業中課題への取り組み</p> |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|------------------------|
| 知識・技能 | 物理量や物理の現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 定期考査 確認テスト |
| 思考・判断・表現 | 様々な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 | グループワークにおける活動 定期試験 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 学習活動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 学習活動における態度、 振り返りシート |

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

| |
|---|
| <p>1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度を身につけましょう。</p> <p>2. 物理法則の導出過程を大切にし、論理的な思考力を高めよう。</p> <p>3. クループ活動・討論をしながら、学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。</p> <p>4. 繰り返し演習に取り組み、徹底して基礎を定着させましょう。</p> <p><定期試験に向けて></p> <p>1. 演習プリントで基礎の確認。（教科書、授業プリントの見直しや解き直し）</p> <p>2. ニューアチーブ物理基礎を2～3周し、理解を深めましょう。</p> |
|---|

| | | | |
|------|-----|------|------------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 化学基礎 | 2 | 1 | Iコース・IIコース |

教科書名 化学基礎 academia (実教出版)

副教材名 新インプレス化学基礎ノート (浜島書店)

1 科目目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい | |
|-------------|--|---|---|--|
| 1 学 期 | 4 | 1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分離と精製 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 | ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 | |
| | 5 | 2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表 《1学期中間試験》 | ・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 | |
| | 6 | 2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 1 イオン結合とイオン結晶 2節 共有結合と分子間力 1 共有結合 2 分子間力 3 共有結合からなる物質 | ・イオン結合およびイオン結合からなる結晶の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、配位結合の仕方も学習する。 | |
| | 7 | 《1学期期末試験》 | | |
| | 【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート | | | |

| | | | |
|-------------|----|---|---|
| | | (3) 新インプレス化学基礎ノートの試験範囲課題 (4) 夏期休業中の課題レポート | |
| | | 【1学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ① 知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ① 授業時の学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 ② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | 3節 金属結合 1 金属結合 4節 化学結合と物質 1 物質の分類 | ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質について学習する。 ・1～3節において学んだ物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。 |
| | 10 | 3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 1 物質量と分子量・式量 2 物質量 《2学期中間試験》 | ・原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学習する。 ・物質量の基本的、計算方法について身に付ける。 |
| | 11 | 3 溶液の濃度 4 化学反応式 A 化学変化と化学反応式 B 化学変化と量的関係 参考 基本法則に関連した化学史 《2学期期末試験》 | ・溶液の濃度について計算する力を育成する。 ・化学反応式の表し方について学習する。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。 |
| | 12 | 2節 酸と塩基 1 酸と塩基 | ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と電離度との関係について理解する。 |
| | | 【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 夏季休業中の課題 (4) 新インプレス化学基礎ノートの試験範囲課題 | |
| | | 【2学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ① 知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) | |

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| | | ① 授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | 2 水素イオン濃度と pH | <ul style="list-style-type: none"> 水素イオン濃度と pH の関係性について理解する。 pH の計算について学習する。 |
| | 2 | 3 中和反応と塩の生成 | <ul style="list-style-type: none"> 中和反応の関係をを用い、酸、塩基のモル濃度と体積を求める力を育成する。 |
| | 3 | 4 中和滴定 | <ul style="list-style-type: none"> 中和滴定(中和反応の実験)で使用する器具や操作について学習する。 滴定曲線(実験から得られるグラフ)の種類について学習する。 |
| | | 《学年末試験》 | |
| | | 【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 冬季休業中の課題 (4) 新インプレス化学基礎ノートの試験範囲課題 | |
| | | 【3学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ① 知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ① 授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 | |
| | | 【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績と平常点を総合して評価する。 | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|----------|--|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する基礎を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 授業ノート 定期試験 小テスト |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化の中に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 授業ノート 演習プリント 定期テスト 課題レポート |

| | | |
|---------------|--|---|
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら物質とそ の変化について関心をもち、意欲的にそれらを探 究しようとするとともに、科学な見方や考え方を 身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 授業ノート 演習プリント 課題レポート |
|---------------|--|---|

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 随時、学習相談を実施しています。つまづいている箇所があれば早めに質問して下さい。対面に加えてロイロノートを利用した学習相談もできます。
- 化学は理系科目の土台になる科目です。2年次以降に化学を選択しない生徒にも共通する範囲がありますので、一生懸命に取り組みましょう。

| | | | |
|------|-----|------|---------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 生物基礎 | 2 | 1 学年 | I・IIコース |

教科書名 生物基礎 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説生物 (第一学習社) セミナー生物基礎 (第一学習社)

スタディアップノート生物基礎 (数研出版)

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|--------|---|---|
| 1 学 期 | 4 5 | 第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 | 第1章 生物の特徴 生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 |
| | | 1学期中間試験 | |
| | 5 | 3. 呼吸と光合成 | 第2章 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体であるDNAについて、構造および遺伝情報について理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞では異なる遺伝子が発現していることを理解する。 |
| | 6 | 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 1学期期末試験 | |

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 学 期 | 【課題・提出物】 |
| | ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する |
| | 【第1学期の評価方法】 |
| | ・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%） |

| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|--|---|
| 2 学 期 | 第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 2学期中間試験 11 3. 免疫のはたらき 2学期期末試験 | 第3章 生物の体内環境 多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境が一定に保たれているしくみや調節方法について学ぶ。また、循環系、腎臓、肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。 |
| | 【課題・提出物】 | |
| | ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答しえ、提出する | |
| | 【第2学期の評価方法】 | |
| | ・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%） | |

| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|--|---|
| 3 学 期 | 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 3学期期末試験 | 第4章 植生の多様性と生態系 植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていることを理解する。 |
| | 【課題・提出物】 | |
| | ・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する | |
| | 【第3学期の評価方法】 | |
| | ・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%） | |
| | 【年間の学習状況の評価方法】 | |
| | ・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する | |

3. 評価の観点、内容及び評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|---|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出すことができる。 ・生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけられている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト |
| 思考・判断 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を化学的にとらえられる。 ・科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出し、それを表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・定期テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・提出物 |

4. 学習サポート

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、学習相談を実施しています。 ・ 授業内容と問題集の橋渡しとして、单元ごとに授業プリントを用いた演習を行います。 |
|---|

| | | | |
|----|-----|------|-----------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 体育 | 2 | 1 | I・IIコース共通 |

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート ・ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）

1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|---|--|
| 1 学 期 | 4 | 集団行動 ①集合・隊形 ②方向変換・列の増減 体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画 (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次） 陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走 | ・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できるようにする。 ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上，運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。 ・以下4項目に関し，体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響 |
| | 5 | スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ | ・中学校までの学習を踏まえて，記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切にし，役割を積極的に引き受け，自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。 ・毎年継続して記録する，スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。 ・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ，生涯スポーツに繋がる土台を養う。 |

| | | | |
|--|-----------------|--|---|
| 1 学 期 | 6 | バレーボール (男子) ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等 ②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ ③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 (直上パス・対人パス) オーバーハンド・アンダーハンド (サービス) アンダーハンド・フローター等 (レシーブ) サープレシーブ・スパイクレシー ブ (スパイク) オープン・クイック | <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられるようにする。 ・ボールを相手側のコートの手前の守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことを目指す。 ・役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる力をつける。 ・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。 |
| | 7 | バレーボール (女子) ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等 ②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ ③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 直上パス・対人パス オーバーハンド・アンダーハンド サービス アンダーハンド・フローター等 レシーブ サープレシーブ・スパイクレシー ブ・ゲーム ※体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と連携して、ネット型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。 ・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられることを目指す。 ・基本技術のパス・レシーブの習得に重点を置き、ラリーが続けられるようにする。 ・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。 |
| 【課題・提出物】なし | | | |
| 【1学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) バレーボール (男子) <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス・スパイク等の実技試験。 ・ルールを理解し、試合を進めることができるか。 バレーボール (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス等の実技試験。 ・ルールを理解し、試合を進める事ができるか。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 | | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい | |
| 9 | スポーツテスト(新体力テスト) | ・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を | |

| | | | |
|-----------------|---|---|---|
| 2 学 期 | 10 | 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横とび・持久走・50m走・立ち幅 跳び・ハンドボール投げ | 身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。 ・休まずに決められた距離・時間を自分のペースで走 ることができるようにする。 |
| | | 陸上競技（長距離走） | ・比較的長い距離を決められた時間内でゴールするこ とができるようにし、記録の向上を目指す。 |
| | | ①ジョギング | |
| | | ②持久走 | |
| | | ※水泳（男子） | ※施設や状況を踏まえ、実施予定。 ・四泳法及び安全の確保の方法を身に付ける。 |
| | | サッカー（男子） | |
| | | ①キック | ・仲間と連携してゴール型スポーツの基本的動作を習 得し、攻防を展開できる力をつける。 （インステップキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （インサイドキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （リフティング） ボールを落とさずに蹴り続けることができる。自分 の蹴りやすい場所にボールを置くことができる。 |
| | | ・インステップキック | |
| | | ・インサイドキック | |
| | | ・リフティング | |
| | | ②コントロール | ・エッジコントロール・クッションコントロール |
| | | グラウンダーのボール、浮き球 | ・胸、正確なボールタッチで速くボールを運ぶことが できる。 ・落ちていてフェイントの技術を発揮することができる。 |
| ③ドリブル | ・攻撃・守備の基本的な原則を理解し実践することが できる。 ・プレイの開始、ファウル、不正行為、オフサイド、 スローイン、ゴールキック、コーナーキックなどのル ールを理解してゲームに取り組むことができるように する。 | | |
| ④フェイント | | | |
| フェイントシザース | | | |
| ボディフェイント | | | |
| ⑤ゲーム | | | |
| ⑥ルールを理解 | | | |
| 10 | ダンス（女子） | | |
| ①ウォーミングアップ | ・仲間と連携してダンス（課題）・リズムの特徴を捉 え、変化とまとまりを付けて踊ることができる。 | | |
| ストレッチ・クーリングダウン | | | |
| 11 | ②現代的なリズムのダンス（振り写し） | ①各動作の特徴を正確にとらえ、表現することができ るようになる。 | |
| ヒップホップ・エアロビクスなど | | | |
| ③発表 | ②音楽に合わせて表現したい内容を踊り、楽しむ。 ③作品に変化とまとまりを付けて発表をする。 | | |
| 12 | 器械体操・卓球（男子） | | |
| （器械体操） | | | |

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| 2 学 期 | 12 | ①マット運動回転系・接点技群 ②マット運動回転系・翻転技群 (卓球) ①グリップ 用具の扱い方 ②ストローク <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスケットボール (女子)</div> 基本動作 ※体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方, 体力の高め方, 課題解決の方法を理解するとともに, 基本的な技を滑らかに安定して行うことができるようにする。 ・仲間と連携して, ネット型スポーツの基本的動作を習得し, 攻防を展開できる力をつける。 ・用具の操作について理解をする。 フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し, ラケットの中央でボールを捉えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と連携して, ゴール型スポーツの基本的動作を習得し, 攻防を展開できる力をつける。 ・ルールや基本動作を理解・実践する。 |
| | 【課題・提出物】なし 【第2学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) スポーツテスト サッカー (男子) <ul style="list-style-type: none"> ・インステップキック, インサイドキック, リフティングなどの実技試験。 ・ルールを理解し, 試合を進める事ができるか。 ダンス (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・振りを的確に覚え, 表現することが出来るか。(個人・集団) ・ダンスの特性に関心を持ち, 楽しさや喜びをあげようとして進んで取り組もうとしているか。 ・互いの良さを認め合い, 協力して練習及び創作・発表に取り組んでいるか。 陸上競技 (長距離走) <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に練習に取り組んでいるか。 ・個々の能力に応じた記録の向上がみられたか。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し, 準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| | 1 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">器械体操・卓球 (男子)</div> (器械体操) ①マット運動回転系・接点技群 ②マット運動回転系・翻転技群 ③連続技 | <ul style="list-style-type: none"> ・回転系接点技群と翻転技群の基本的な技を滑らかに安定して行うこと, 条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。 |
| | 2 | (卓球) ①グリップ ②ストローク | <ul style="list-style-type: none"> ・サービス時のルールを理解させ, ロング, ショートサービスを使い分けるようにする。 ・基本的なルールを理解する。 |

| | | |
|--|---|---|
| 3 学 期 | ③サーブ ④ルールの理解 ⑤ラリーの組み立て方 バスケットボール (女子) ①ハンドリング ②レグスルー ③シュート セットシュート レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルールの理解 ※体育理論 | ツツキ、ドライブなどの球種を理解しゲームの中の攻防に組み入れることができるようにする。 卓球の特性であるリズム感を習得し、ラリーを続けることができるようにする。 ・手、指でボールを扱うことができる。 ・ボールを両手、片手、左右で自在に操ることが出来る。パス、ドリブル、シュートの感覚を身に付ける。 ・レイアップシュート、ゴール下シュートができるようにする。 攻撃・守備の基本を理解し、基本的な技術を身につけ、ミニゲームで実践することができるようにする。 |
| | 【課題・提出物】 なし 【第3学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) 器械体操 (男子) ・身につけた技を構成して演技し評価する。 ・自己の課題に応じた練習を行い、新しい技へ挑戦したり、健康・安全を確保したりしている。 卓球 (男子) ・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 バスケットボール (女子) ・ドリブル・シュートの試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 ・道具の準備や片付けを協力しながら積極的にできる。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 学年末評定 (評価) は 1 学期・2 学期・3 学期の実技の平均 (60%) 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況・(40%) 知識・技能, 思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。 | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|-------|--|----------------------|
| 知識・技能 | 運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに, 目的に応じた技能を身に付けている。 | 実技テスト 確認テスト 記録 |

| | | |
|---------------|---|----------|
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。 2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており，ゲームに生かすことができる。 3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い，攻防を展開できる技能を有する。 4. ミニゲームの審判を務めることができる。 | 観察 |
| 思考・判断・表現 | <p>自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて，課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに，それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し，伝えようとしている。 2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。 | 記録 観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，運動の合理的，計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席が少なく，授業への参加態度が良好である。 2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし，学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。 3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。 | 記録 観察 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上，基本は授業内で実施をするが，必要性や状況に応じて対応をする。

| | | | |
|-----|-----|------|-----------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 保健 | 1 | 1 | I・IIコース共通 |

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1 科目目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理し改善していくための資質・能力を育成する。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|-------------------------------|---|
| 1 学 期 | 4 | 1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな健康の考え方について理解する。 ・健康を成り立たせている要因を理解する。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。 ・わが国の現在の健康問題について理解する。 ・生活習慣病の種類と要因について理解する。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。 ・がんの種類や原因について理解する。 ・がんの一次予防と二次予防について理解する。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。 ・健康と運動の関係について理解する。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたを身につける。 ・食事と健康の関係について理解する。 ・健康的な食事のとり方について理解し、身につける。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について理解する。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげ、説明することができる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解する。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響に |
| | | 2 私たちの健康のすがた | |
| | | 3 生活習慣病の予防と回復 | |
| | | 4 がんの原因と予防 | |
| | | 5 がんの治療と回復 | |
| | 5 | 6 運動と健康 | |
| | | 7 食事と健康 | |
| | | 8 休養・睡眠と健康 | |
| | 6 | 9 喫煙と健康 | |
| | | 7 | 10 飲酒と健康 |
| | | | 11 薬物乱用と健康 |

| | | | |
|----------------|----|--|--|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ついて理解する。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。 |
| | | 【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート | |
| | | 【1学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況） | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | 12 精神疾患の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 |
| | 10 | 13 精神疾患の予防 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を予防する方法について理解する。 ・精神疾患の治療について理解する。 |
| | | 14 精神疾患からの回復 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて例をあげることができる。 |
| | | 15 現代の感染症 | <ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。 |
| | 11 | 16 感染症の予防 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防対策について3原則を理解し、例を挙げることができる。 ・感染症への個人と社会の対策について理解し、例をあげて説明できる。 |
| | 12 | 17 性感染症・エイズとその予防 | <ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。 |
| | | 18 健康に関する意思決定・行動選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。 |
| 19 健康に関する環境づくり | | <ul style="list-style-type: none"> ・社会環境の健康への影響について理解する。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。 | |
| | | 【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート | |
| | | 【2学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況） | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | 2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について理解する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて理解する。 |
| | 2 | 2 安全な社会の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全のために必要な個人の行動について理解する。 |

| | | |
|---|----------------|--|
| 3 | 3 交通における安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて理解する。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・交通事故における責任を3つに分け理解する。 ・応急手当の意義について理解する。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを身につけ、実践できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について身につけ、実践できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当の仕方を身につける。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。 ・実際に、心肺蘇生法の仕方を身につける。 |
| | 4 応急手当の意義とその基本 | |
| | 5 日常的な応急手当 | |
| | 6 心肺蘇生法 | |
| 【課題・提出物】○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート | | |
| 【3学期の評価方法】○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況） | | |
| <p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）</p> <p>(1) 各学期評価【試験における素点の80%+平常点20%にて評価】各学期、年度末とも</p> <p>(2) 年度末評価【(1学期素点+2学期素点+3学期素点)÷3+年間平常点にて評価】</p> <p>(3) 平常点の算出 授業に対する取り組み、小テスト、動画視聴、まとめレポート等で算出。 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。</p> | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|---|--------------------|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ○ペーパー試験において、事実に知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。 ○授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験（応急手当や心肺蘇生など）を行う。 | 定期試験 豆テスト 観察 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ○論述やレポートの作成、発表。グループでの話し合いなどを行う。 | レポート 観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ○ノートやレポートによる記述 ○授業中の発言 ○自己評価 | 観察 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては、随時教科担当者が対応する。

| | | | |
|-----|-----|----------|-------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 音楽Ⅰ | 2 | 1学年音楽選択者 | 全クラス |

教科書名 高校音楽Ⅰ Tutti+ (教育出版)

1 科目目標

- (1) 歌唱を通して、曲種に応じた発声や曲想を工夫し表現する技能を高める。
- (2) 器楽演奏を通して、楽器奏法や視奏力を身につけ、合奏の楽しさを味わう。
- (3) 時代や地域に基づく音楽文化について、理解を深めるとともに、主体的に鑑賞し根拠をもって自分なりに思考・判断することのできる言語表現力を養う。
- (4) 音楽の組み立て方を学び、創作の技能を身につける。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|--------------------------|----|---|--|
| 1 学 期 | 4 | ○校歌・学生歌・応援歌の歌唱 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の特徴や歴史的背景を理解し、意欲的に活動する。 ・ 作品に合った発声を習得する。 ・ 音楽史を理解する。 ・ 多角的な観点から学びを深める。 |
| | 5 | ○日本歌曲や西洋歌曲の歌唱 (イタリア・ドイツ歌曲) | |
| | 6 | ○日本及び世界各国の音楽的特徴・特色の理解 ○他の芸術と音楽の結びつきを学ぶ | |
| | 7 | ○合唱曲の歌唱 ○ボディーパーカッションやヴォイスアンサンブルを通したリズムの理解、グループ演奏 | |
| 【課題・提出物】 ワークシート | | | |
| 【1学期の評価方法】 | | | |
| ・歌唱実技テスト | | | |
| ・平常の取り組み (ワークシート・鑑賞の記録等) | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | ○ミュージカルの鑑賞と歌唱 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の様式を理解する。 ・ 曲想を工夫し、表現する。 ・ 正しい奏法を体得する。 ・ コードを用いて弾き語りをする。 ・ 楽曲特有の特徴や歌唱法を理解し、表現の工夫をする。 ・ 様々な楽器の特性を理解する。 |
| | | ○洋楽の理解と歌唱 | |
| | 10 | ○ギター奏法の習得 ○コードについての理解 | |
| | 11 | ○欧米、民族の音楽の理解 ○オペラの鑑賞 ○映画音楽の歌唱 | |
| | 12 | ○日本の楽器やオーケストラの楽器の理解 | |

| | | |
|--|---|---|
| | ○ハンドベル演奏 ○ゴスペル曲の歌唱 | ・他者と協調し、合奏する。 ・様式を理解し、表現する。 |
| 【課題・提出物】ワークシート | | |
| 【2学期の評価方法】 ・ギター実技テスト ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等） | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 ○日本音楽（伝統音楽・ポピュラー音楽）の理解 ○音楽の仕組み、構成要素、楽典の理解 | ・伝統音楽における構造を理解する。 ・作品を通して、基本的な楽典を理解する。 |
| | 2 ○シャンソンの歌唱 | ・楽曲特有の発音、歌唱法を理解し、表現の工夫をする。 |
| | 3 ○自由発表 | ・各自が主体的に創意工夫をし、演奏や作品発表をする。 |
| 【課題・提出物】ワークシート | | |
| 【3学期の評価方法】 ・自由発表 ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等） | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 ○平常点 20%、実技点 80% ※各定期試験は実施しない。 ○学年末評価は三学期評価を算出の上、各学期の平均として行う。 | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|---------------------------|
| 知識・技能 | 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解し演奏や鑑賞ができる。 | ・歌唱 ・ワークシート提出 |
| 思考・判断・表現 | 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって演奏や鑑賞ができる。 曲種に応じた発声や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏ができる。 | ・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏や鑑賞ができる。 | ・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み方、リズムや音程の取り方、楽器の奏法などの個別指導も行う。 ・休み時間なども相談を受け付ける。 ・音楽系大学や音楽教育分野などの進路指導にも対応する。 |
|---|

| | | | |
|------|-----|-----------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 美術 I | 2 | 1 学年美術選択者 | 全クラス |

教科書名 高校生の美術 1 (日本文教出版)

副教材 実習に必要な材料・用具(年度初めに用意)

1. 科目目標

| |
|---|
| <p>(1) 幅広い制作活動を通して、造形的な表現への興味や関心を高めるとともに具体的に表現するための技能や知識を習得する。</p> <p>(2) 社会の造形的な文化活動について理解を深めるとともに、社会参加のために将来必要となる資質や能力を高める。</p> |
|---|

2. 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|--|----|------------------------------|--|
| 1 学 期 | 4 | ◎「ドローイング」 | <ul style="list-style-type: none"> ・透視図的な物の見方やハッチングなど描画を体験し、空間認識力を高める。 ・材料や道具の基本的な性質を理解し、限られた条件で表現する柔軟性や巧緻性を養う。 ・自己分析シートを活用し、自己評価力を高める。 |
| | 5 | : 線描写を用いて空間を表現する | |
| | 6 | ◎「高さに挑戦」 | |
| | 7 | : 紙工作でより高い造形物を作る | |
| 【課題・提出物】 | | | |
| ・作品 8 枚 | | | |
| 【1 学期の評価方法】 | | | |
| ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点 | | | |
| ・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点 (発想・構想 各 5 点)・(創造的技能 各 5 点)×8 作品 | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | ◎「ゾートロープ」 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画原理の学習からアニメーションへの関心を抱く。 ・動画作品を鑑賞する人に、表現者の意図が伝わる喜びを味わい、表現目的や造形文化について考える。 ・立体的な想像力を高め、空間認識力を育成する。 ・混色や重色などについて理解し、配色の効果についての思考力、表現力を高める。 ・これまでの多様な学習内容を活かして想像を膨らませ、発想力や構想力を育む。 |
| | 10 | : アニメーションの学習 | |
| | 11 | ◎「空想の生物と図鑑の制作」 | |
| | 12 | : 塑像による立体表現と 着彩による色彩効果の学習 | |
| 【課題・提出物】 | | | |
| ・作品(立体作品、ゾートロープ) | | | |
| 【2 学期の評価方法】 | | | |
| ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点 | | | |
| ・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点 | | | |

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|--|---|---|---|
| 3 学 期 | 1 | ◎「光で楽しむ半立体作品」 ：切り抜いた画用紙を重ね、 画面に凹凸のある表現をす る | ・主題に応じた教材の使い方を工夫し発想力や活用力、表現力を育む。 |
| | 2 | | ・紙の重なりと陰影の効果を考えながら表現し計画力や構想力を高める。 |
| | 3 | | ・試行錯誤しながらイメージを実現するための思考力や判断力を高める。 ・生徒間で表現意図や効果を共有し造形的な知的活動を楽しみ、共感性や協調性、人間関係力を育成する。 |
| 【課題・提出物】 | | | |
| ・作品 ・課題プリント(任意) | | | |
| 【3学期の評価方法】 | | | |
| ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点 ・技能点：作品(発想・構想 各40点)・(創造的技能 各40点) 80点 | | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 | | | |
| 生徒の状況をふまえ、作品を通して総合的に評価する。 | | | |

3. 評価の観点、内容及び評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|---------------------------------|
| 知識・技能 | ・画材の特性を効果的に利用することができる。 ・各単元で習得した内容を活用、応用できる。 | 表現活動の観察 作品(習作含む) |
| 思考・判断・表現 | ・課題を的確に捉え、問題解決を図ることができる。 ・情報を整理し、表現の為のアイデアを練ることができる。 | 資料プリント等での スケッチ、構成 学習活動の観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・提示された課題に興味をもち、積極性や集中力を発して表現の可能性を追求することができる。 ・表現方法を工夫しながら丁寧に制作できる。 ・表現活動を通じて、周囲の状況に配慮しながら協力して制作できる。 ・完成度を高めながら造形の美しさや創造の楽しさを自分なりに発見し、そのよさを味わえる。 ・表現体験と鑑賞活動を通して自己評価できる。 | 学習活動の観察 発言 |

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・生徒の状況や必要に応じて、準備物や予習のための資料プリントを配布する。
- ・課外で「放課後アートタイム」を設け、生徒が主体的に学習補完できるようにする。

| | | | |
|------|-----|-----------|-------|
| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 書道 I | 2 | 1 学年書道選択者 | 全クラス |

教科書名 _____ 書 I _____ (光村図書)

1 科目目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|----|--|--|
| 1 学 期 | 4 | 書写から書道へ | <ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の学習の違いを確認する。 ・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書に親しむ情操を養う。 ・用具用材の扱い方を学ぶ。 |
| | 5 | 漢字の変遷と様々な書体 | |
| | 6 | 文房四宝 | |
| | 7 | | |
| | | 唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本点画の用筆・運筆を身に付ける。 ・古典と現代の書を学び、それぞれの書の特徴を捉え臨書する。 |
| | | 【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出 | |
| | | 【1 学期の評価方法】作品提出による実技点 80%、及び平常点 20% | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | 蘭亭序 | <ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的特徴を学ぶ。 ・王羲之や三筆・三跡等の歴史や作品が書かれた背景を理解する。 ・蘭亭序を学び模範的な行書を臨書する。 ・風信帖に学び古典筆跡の鑑賞と理解を深める。 |
| | 10 | 風信帖 三筆・三跡 | |
| | 11 | 仮名の筆使い 平仮名 | |

| | | |
|---|---------------------|---|
| 12 | 変体仮名 高野切 蓬萊切 | に付ける。 ・平仮名、変体仮名の字源を意識し書く。 ・古筆を鑑賞し美しさを味わう。 |
| | はがき・手紙の書き方 | ・正しいはがき等の書き方を身に付ける。 |
| | 【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出 | |
| 【2学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20% | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 漢字仮名交じりの書 | ・用具や表現法の効果を理解する。 |
| | 2 | ・学んだことを用いて書きたい思いを言葉にして |
| | 3 | 作品として仕上げ創造力や表現力を育成する。 ・他者の作品を鑑賞し感受性を磨く。 |
| 【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出 | | |
| 【3学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20% | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 実技点80%、及び平常点20% ※各定期試験は実施しない。 学年末評価は、3学期評価を算出の上、各学期の平均となる。 | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|---|--------------------|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得できる。 ・古典作品の書家や時代背景を理解できる。 | 学習活動の観察 作品 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途の即した形式、意図に基づく表現を工夫できる。 ・他者の作品を鑑賞し表現の工夫点や自己との相違点を見つけ、作品に生かすことができる。 | 授業内プリント 学習活動の観察 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・道具を適切に扱うことができる。 ・集中して取り組み、技術の向上に努めることができる。 ・話し合いに積極的に参加できる。 ・古典作品や生徒同士の作品に興味と関心をもって鑑賞できる。 | 授業内プリント 学習活動の観察 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

| |
|------------------|
| 授業内・授業後に添削指導を行う。 |
|------------------|

| | | | |
|---------------|-----|------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 英語コミュニケーション I | 5 | 1 | Ⅱコース |

教科書名 ELEMENT English Communication I (啓林館)
 副教材名 ELEMENT English Communication I サブノート (啓林館)
ELEMENT English Communication I WORKBOOK ADVANCED (啓林館)
高校英語入門 Hop! Stage (いいずな)
Pair & Share 1 (いいずな)
SWの王道 大学入試4技能試験対応 基礎力養成コア 表現トレーニング (旺文社)
英単語ターゲット 1400 (旺文社)
Viewpoint Basic 英文読解の着眼点 15 (数研出版)

1 科目目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|---|--|--|
| 1 学 期 | 4 | Hop! Stage Part 1 ~ 2 | 英語の品詞と語順を確認する。 |
| | 5 | Lesson 1 Intercultural Relationships Pair & Share 1 (随時) Lesson 1 ~ 3 基礎養成コア表現トレーニング (随時) Lesson 1 ~ 8 | 強弱のリズム・イントネーションを聞き取る。 海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。 英語の5文型、受動態、to不定詞を用いた文を理解する。 日常生活について英語で表現する。 |
| | 6 | Lesson 2 Love beyond Species | つながりやすい音・変化しやすい音を聞き取る。 ペットを友人に預ける際の注意点を聞き取る。 現在完了形／現在完了進行形、分詞の限定用法を用いた文の構造を理解する。 |
| | | | |

| | | |
|--|---|---|
| | Lesson 3 Contributing to Our Planet | 消える音・弱くなる音，短縮形を聞き取る。 使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。 関係代名詞，使役動詞を用いた文の構造を理解する。 |
| 7 | Pair & Share 1 (随時) Lesson 4 ~ 6 基礎養成コア表現トレーニング (随時) Lesson 9 ~ 17 | 日常生活について英語で表現する。 |
| 【課題・提出物】 小テスト，副教材 | | |
| 【1学期の評価方法】 素点：80% (定期試験) 平常点：20% (課題・提出物) | | |
| 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 Lesson 4 Messages for World Peace | 博物館を訪れた生徒に先生がしている諸注意を聞き取る。 登場人物の心情を理解する。 過去完了形，知覚動詞を用いた文の構造を理解する。 |
| | 10 Lesson 5 Respecting Each Other | 身近な人や物について話している会話を聞き取る。 登場人物の心情をおさえる。 関係代名詞の what, 関係副詞を用いた文の構造を理解する。 |
| | Pair & Share 1 (随時) Lesson 7 ~ 10 基礎養成コア表現トレーニング (随時) Lesson 18 ~ 23 | 日常生活について英語で表現する。 |
| 11 | Lesson 6 Language and Culture | ラジオニュースを聞き取る。 関係代名詞の非限定用法，分詞構文を用いた文の構造を理解する。 |

| | | | |
|---|--|---|---|
| | 12 | Lesson 7 Technology and Discoveries Pair & Share 1 (随時) Lesson 11 ~ 14 基礎養成コア表現トレーニング (随時) Lesson 24 ~ 29 | 科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 形式主語の it, be 動詞の補語になる that 節を用いた文の構造を理解する。 日常生活について英語で表現する。 |
| | 【課題・提出物】 小テスト, 副教材 | | |
| | 【2学期の評価方法】 素点: 80% (定期試験) 平常点: 20% (課題・提出物) | | |
| | | | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | Lesson 8 Standing Up for Human Rights | 人権を守る試みについての会話を聞き取る。 仮定法過去/仮定法過去完了, 過去完了進行形を用いた文の構造を理解する。 |
| | 2 | Further Reading 1 Pair & Share 1 (随時) Lesson 15 ~ 20 基礎養成コア表現トレーニング (随時) | SDGs についてのスピーチを読み, 情報を事実と意見に整理する。 日常生活について英語で表現する。 |
| | 3 | Lesson 30 ~ 43 | |
| | 【課題・提出物】 小テスト, 副教材 | | |
| 【3学期の評価方法】 素点: 80% (定期試験) 平常点: 20% (課題・提出物) | | | |
| 【年間の学習状況の評価方法】 素点: 80% (定期試験の平均点) 平常点: 20% (平常点の平均点) | | | |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|--|-----------------------------|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文等を読んで、その内容を捉える技能を身につけている。 | 小テスト 定期試験 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 | 小テスト 定期試験 授業態度 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 | 小テスト 定期試験 授業態度 提出物 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

予習・授業・復習を通じて「わかる」範囲を広げましょう。単語や熟語、文法の知識を使って文構造や段落を理解してください。

| | | | |
|---------|-----|------|-------|
| 科 目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
| 論理・表現 I | 2 | 1 | IIコース |

教科書名 Vision Quest English Logic and Expression I Advanced (啓林館)

副教材名 Vision Quest 論理・表現 I Advanced WORKBOOK (啓林館)

Vision Quest 総合英語 (啓林館)

1 科目目標

「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。

2 学習計画及び評価方法

| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|----|--|--------------|
| 1 学 期 | 4 | Lesson 1 | 文の種類を学習する。 |
| | 5 | Lesson 2 | 動詞の5文型を理解する。 |
| | | Lesson 3 | 時制を理解する。 |
| | 6 | Lesson 4 | 完了形を理解する。 |
| | 7 | Lesson 5 | 助動詞を理解する。 |
| | | 【課題・提出物】 小テスト, 副教材 | |
| | | 【1学期の評価方法】 素点: 80% (定期試験) 平常点: 20% (課題・提出物) | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 2 学 期 | 9 | Lesson 6 | 受動態を理解する。 |
| | 10 | Lesson 7 | 不定詞を理解する。 |
| | | Lesson 8 | 動名詞を理解する。 |
| | 11 | Lesson 9 | 分詞を理解する。 |
| | 12 | | |
| | | 【課題・提出物】 小テスト, 副教材 | |
| | | 【2学期の評価方法】 素点: 80% (定期試験) 平常点: 20% (課題・提出物) | |
| | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
| 3 学 期 | 1 | Lesson 10 | 関係詞を理解する。 |
| | 2 | Lesson 11 | 比較を理解する。 |
| | | Lesson 12 | 仮定法を理解する。 |
| | 3 | | |

| |
|---|
| <p>【課題・提出物】 小テスト，副教材</p> |
| <p>【3学期の評価方法】 素点：80%（定期試験） 平常点：20%（課題・提出物）</p> |
| <p>【年間の学習状況の評価方法】 素点：80%（定期試験の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）</p> |

3 観点別評価内容および評価方法

| | 観点別評価内容 | 評価方法 |
|---------------|---|-----------------------------|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語の働きや役割などを理解し，英語の音声，語彙・表現，文法の知識を身につけている。 ・英語の音声，語彙・表現，文法を実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身につけている。 | 小テスト 定期試験 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について，情報や考えなどの概要・詳細・意図を英語での確に理解したり適切に表現したりしている。 ・英語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して，場面・目的・状況等に応じて，幅広い話題について英語を話したり書いたりして，情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。 | 小テスト 定期試験 授業態度 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ・英語の学習を通じて，言語やその背景にある文化を尊重し，自律的・主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。 ・他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，英語で聞いたり読んだりしたことを活用して，自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 | 小テスト 定期試験 授業態度 提出物 |

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

言語学習では学んだ内容を実際に使ってみることが大切です。授業だけでなく家庭でも練習する習慣を身につけてください。

| 科目 | 単位数 | 対象学年 | 対象クラス |
|-----------|-----|------|-------|
| 総合的な探究の時間 | 1 | 1 学年 | 全 |

教材名 「インターン (INTERN)」 (株)教育と探求社
 NOLTY スコラ探究プログラム「基本編」 (株) NOLTY プランナーズ

1 科目目標

学習指導要領における目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

日本大学および

日本大学東北高等学校の教育目標

『自主創造』

自主的に学び、考え、広く世界的視野を持つ新しい自分、心豊かな自分を創造すること。

※日本大学マインド

多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

踏まえて

踏まえて

本校において定める「総合的な探究の時間」の目標

探究が自律的に行なわれるような学習環境の整備に努め、他者と協働的に取り組む中で、新たな価値を見つけ、自己の生き方や社会・職業などについて考え、発展的に自己の進路実現に向かっていくような学習展開がなされることを目標とする。

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力

「総合的な探究の時間」において育てようとする資質や能力及び態度

- 1 生徒自身が、これまでの学びを相互に関連付けながら課題を発見し、解決する能力
- 2 自律的・主体的に学習活動に取り組むことができる資質
- 3 他者と協働して課題に取り組む態度
- 4 自己の生き方や社会の諸問題について考え、発展的に自身の進路実現に向かっていく態度

2 各学年の目標および探究するテーマ

1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。

職業や自己の進路、キャリアに関するテーマ

2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する → ロハス探究

3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

3 学習計画及び評価方法

| 学期 | 回 | 教材 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-----------|----|-----------|---|---|
| 1 学期 | 1 | 【INTERN】 | オリエンテーション | ワークを通して自分の仕事に対する考えに目を向け将来へのイメージを広げる。 |
| | 2 | | 自分の仕事意識を知る | |
| | 3 | | インターンの募集を見る | インターンする企業を決め、アンケート調査を通してその企業や事業についての理解を深める。 |
| | 4 | | 仕事を始める | |
| | 5 | | 調査結果を報告する | 企業が社会に対してどのような価値を生み出しているのか、体験的に主体的に探求する。 |
| | 6 | | 課題を確認する | |
| 2 学期 | 7 | 【INTERN】 | 課題に取り組む | 活動を振り返り、一人ひとりが「働く」ことについて自分なりに考える。 |
| | 8 | | プレゼンテーションを行う | |
| | 9 | | 合同研修を受ける | |
| | 10 | | 最終レポート | |
| 【前期の評価方法】 | | | ・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価 | |
| 2 学期 | 1 | 【探究プログラム】 | イントロ・興味関心1 | 探究とはなにか、なぜ行うかを考える。 |
| | 2 | | 興味関心2 | 身の回りのものに目を向け、疑問を見つけ |
| | 3 | | 興味関心3 | て、問いを立てる。 |
| | 4 | | 興味関心4・課題設定1 | |
| | 5 | | 課題設定2 | 課題を解決する道筋を立てる。 |
| | 6 | | 情報収集1 | 情報収集の方法を学ぶ。 |
| | 7 | | 情報収集2 | 情報を収集する。 |
| 3 学期 | 8 | | 整理分析1 | 整理・分析の方法について学ぶ。 |
| | 9 | | 整理分析2 | 実際に収集した情報を整理・分析する。 |
| | 10 | | まとめ表現1 | 表現方法について学び、発表の準備をする。 |
| | 11 | | まとめ表現2 | 発表し合い、疑問を気づきを得る。 |
| | 12 | | 振り返り | 探究活動を振り返り、次の課題を見つける。 |
| 【後期の評価方法】 | | | ・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価 | |

4-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

| | 評価の観点及び内容 | 評価方法 |
|----------|--|-----------------------------|
| 知識・技能 | 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。 | プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。 |
| 思考・判断・表現 | 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。 | 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。 |

| | | |
|----------------------|--|--|
| <p>主体的に学習に取り組む態度</p> | <p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p> | <p>学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p> |
|----------------------|--|--|

4-(2) 評価基準（ルーブリック）

| | 十分満足できる(A) | 概ね満足できる(B) | 努力を要する(C) |
|---|---|--|---|
| <p>知識・技能 知識・技能</p> | <p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p> | <p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p> | <p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p> |
| <p>課題を発見する力 思考・判断</p> | <p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p> | <p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p> | <p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p> |
| <p>課題を解決する力 思考・判断</p> | <p>データや情報を適切に収集し、整理・分析することができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p> | <p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p> | <p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p> |
| <p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p> | <p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p> | <p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p> | <p>発表するための準備が不十分である。</p> |
| <p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p> | <p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p> | <p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p> | <p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p> |
| <p>他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度</p> | <p>班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。</p> | <p>班員と協力して活動できる。</p> | <p>班員と協力する姿勢が見られない。</p> |